

「国立婦人教育会館研究紀要」第2号投稿論文募集要項

1 趣 旨

国立婦人教育会館では、会館の調査研究の内容の充実を図るとともに、わが国における婦人教育の進展に寄与するために発行する会館の調査研究の成果およびジェンダーの視点に立った生涯学習に関わる国際的、学際的研究ならびに実践的研究を掲載する「国立婦人教育会館研究紀要」の投稿論文を募集する。

2 募集する論文

平成10年10月発行予定の第2号に掲載する。

・掲載論文 「論文」「研究ノート」「実践事例研究」

種 類	内 容
論 文	オリジナルな研究成果をまとめたもの
研究ノート	研究の中間報告、覚書及び新しい研究方法についての報告
実践事例研究	具体的な実践的事例研究報告

・投稿規定、執筆要項は別途作成する。

3 テーマ

第2号「ジェンダーからみた家族」

4 応募者

・国内外の研究者、行政関係者、実践者等

5 締め切り

(1) 原稿表題（テーマ）提出締切 平成 9年12月 1日（月）

(2) 原稿締切 平成10年 1月31日（土）

（掲載論文は4月に決定します。）

6 掲載論文の決定

次頁の紀要委員、紀要協力委員が投稿論文の査読、掲載論文の決定等を行う。

7 提出先

国立婦人教育会館事業課

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷 728

TEL 0493-62-6711

FAX 0493-62-6720

(1) 紀要委員 6人

委員長	天野 正子	お茶の水女子大学教授	(教育社会学)
	新井 郁男	上越教育大学教授	(生涯学習)
	大沢 真理	東京大学助教授	(社会政策)
	加藤 秀俊	中部高等学術研究所所長	(社会学)
	平木 典子	日本女子大学教授	(心理学)
	大野 曜	国立婦人教育会館長	(婦人教育)

(2) 紀要協力委員

阿籬 誠	国立社会保障・人口問題研究所副所長	(人口学)
伊藤 陽一	法政大学教授	(経済学・ジェンダー統計)
伊藤 るり	立教大学教授	(開発と女性)
江原 由美子	東京都立大学助教授	(社会学・ジェンダー理論)
柏木 恵子	白百合女子大学教授	(発達心理学)
門脇 厚司	筑波大学教授	(教育社会学)
苅谷 剛彦	東京大学助教授	(高等教育)
橋本 ヒロ子	十文字学園女子大学助教授	(女性情報)
原 ひろ子	お茶の水女子大学教授	(女性学・女性と健康)
牧野 カツコ	お茶の水女子大学助教授	(家族社会学)
山本 慶裕	国立教育研究所生涯学習開発・評価 研究室長	(生涯学習)
吉田 あこ	実践女子大学教授	(建築学・女性と建築)
脇田 晴子	滋賀県立大学教授	(歴史学・女性史)

「国立婦人教育会館研究紀要」投稿規定

1. 「国立婦人教育会館研究紀要」の内容は、ジェンダーの視点に立った生涯学習に関わる国際的、学際的研究ならびに実践的研究に寄与するものとする。
2. 投稿原稿は、特集テーマに関するものと自由論題のものとし、「論文」「研究ノート」「実践事例研究」とする。
3. 投稿原稿は、未発表の完成原稿とし、紀要委員会が複数のレフェリーによる査読のうえ、採否を決定する。なお、原稿・フロッピーディスクは採否に関わらず原則として返却しない。
4. 執筆者には、抜刷り 30 部を配布する。
5. 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
6. 原稿には表紙をつけ、下記のことを明記する。
 - (1) 表題
 - (2) 表題の英訳
 - (3) 著者の職氏名
 - (4) 目次なお、表紙の右肩に「論文」への投稿であるのか、「研究ノート」「実践事例研究」への投稿であるのかを明記する。
7. 原稿執筆中における使用言語は、日本語または英語に限る。日本語については当用漢字とし、現代仮名づかいを用いる。なお、引用文等に関して旧漢字、旧仮名づかい等の問題が生ずる場合には、前もって申し出ること。また、図・表・写真及び特殊な文字・記号の使用については紀要委員会に相談すること。
8. 原稿には、別に 800 字以内（300 ワード程度）の要旨（日本語及び英訳）を添付する。
9. 論文の分類、検索の利便のため、5 項目から 8 項目キーワードをつける。
10. 原稿の枚数は、以下のとおりとする。
 - (1) 日本語原稿 横書き 400 字詰原稿用紙
 - ①「論文」 50 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
 - ②「研究ノート」 30 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
 - ③「実践事例研究」30 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
 - (2) 英語原稿 A 4 判縦使い／ダブルスペース
 - ①「論文」 20 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
 - ②「研究ノート」 12 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
 - ③「実践事例研究」12 枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）
11. 投稿に関する連絡先は下記の通りである。

国立婦人教育会館事業課

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷 728 番地 TEL 0493-62-6711 内線 2116

FAX 0493-62-6720 （事業課）

「国立婦人教育会館研究紀要」執筆要項

1. 原稿は、400字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
3. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
4. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
5. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名および説明ならびに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれの挿入箇所を指定するものとする。
6. 写真は、写りの明瞭なもので、手札版以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、挿入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
7. 本文又注において文献を指示するY場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[井上 1990 57-60]

8. 注、引用文献、参考文献はすべて原稿の末尾にまとめる。
9. 引用文献、参考文献は下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。なお、欧文の書名、雑誌名にアンダーラインを引くこと。

(例)・論文の場合

目黒依子 1991 「家族の個人化—家族変動のパラダイム探求—」『家族社会学研究』3:pp8-15

Trivers,R.L. 1974 Parent-offspring conflict. American Zoologist, 14:pp24-46

・単行本の場合

斎藤 学 1992 「子供の愛し方がわからない親たち」講談社

・翻訳書の場合

スターン,D. 1979 「母子関係の出発—誕生からの180日」岡村佳子訳 サイエンス社

10. フロッピー原稿の場合の作成要領は、以下の通りとする。原稿を印刷したものとフロッピーディスクを提出する。

書式：横書き/A4判縦使い/40字×30行

枚数：「論文」17枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）

「研究ノート」10枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）

「実践事例研究」10枚以内（引用文献、参考文献、注、図・表を含む）

フロッピーディスク

- ① 3.5インチを使用
- ② ラベルに氏名、論文題目、使用機種名及びソフト名を記入
- ③ 本文・引用文献・参考文献・注のみをMS-DOSTXTファイルにすること
- ④ 図・表は必ずしもフロッピーに入力せず手書きでよいが、入力する場合は同一フロッピーに別文書として入力し、罫線は記入しない
- ⑤ 表題・氏名を原稿の冒頭に、所属先・肩書を括弧書きで原稿本文の末尾にそれぞれ入力する
- ⑥ 引用文献、参考文献、注は論文末尾にまとめる